



※こちらのプレスリリースは、エメンド・バイオセラピューティクス社が米国で発表した内容を日本語に翻訳したものです。

エメンド・バイオセラピューティクス プレスリリース

2020年1月15日

エメンド・バイオセラピューティクスが次世代のゲノム編集治療薬推進に向けて6,100万ドルを調達

- アンジェス社および Takeda Ventures 社と戦略的パートナーシップを拡大
- 治療薬製品パイプラインの拡大に向けて、新しい OMNI 遺伝子編集技術のプラットフォーム開発を加速

ニューヨーク、1月15日

合成生物学を活用して治療不可能な疾患に対処する次世代の遺伝子編集のリーダーであるエメンド・バイオセラピューティクス社(以下エメンド社)は、日本を拠点とするバイオ医薬品企業であるアンジェス社を主とするシリーズ B の投資総額が、(Takeda Ventures 社の投資分を含めて)合計6,100万ドルとなったことを発表しました。

“この資金により、我々は開発のための地盤固めができることになり、独自の OMNI 遺伝子編集プラットフォームを、壊滅的で治療不可能な疾患に対処するための幅広い臨床パイプライン拡充に向けて加速できるようになります。強力な科学力を変革的な薬として世に送り出すことに挑戦するという我々のビジョンを共有できるアンジェス社や OrbiMed Advisors 社、OrbiMed Israel Partners 社、Takeda Ventures 社などの質の高い企業からのサポートを受けられることに心から感謝しています”と社長兼 CEO の David Baram はコメントしています。

エメンド社は、合成生物学を駆使してゲノム編集の可能性を拡大する次世代のアレル特異的遺伝子編集プラットフォームである OMNI の先駆者です。2019年にエメンド社は研究開発を目的として、我々の OMNI ヌクレアーゼ遺伝子編集プログラムを駆使して、特定の2つの遺伝子を編集する権利を(Takeda Ventures 社に)付与していました。これにより、Takeda Ventures 社よりシリーズ B において転換可能な未公開の投資を得ていました。

エメンド社の OMNI 技術は、好中球エラスターゼ遺伝子 ELANE の変異によって引き起こされる重度先天性好中球減少症(SCN)などの常染色体顕性遺伝疾患に対して高効率を維持し、且つ、正確な遺伝子編集を可能にする独自の技術です。常染色体顕性遺伝疾患は、これまで治療不可能であった多くの遺伝子疾患の代表的なものです。

アンジェスについて

アンジェスは遺伝子治療と核酸医薬を含む遺伝子医薬品とそれらの導出手掛ける日本の大阪と東京に拠点をもつバイオ医薬品企業です。アンジェスの主力製品は、2019年に厚生労働省より期限および条件付き承認を得た、重症虚血肢(CLI)に対する血管新生因子であるコラテジェン®で、これはヒト肝細胞成長因子(HGF)遺伝子をコードする DNA プラスミドです。また、炎症性疾患向けの NF-kB デコイオリゴなどの研究開発を行っています。詳細はこちらをご覧ください。
www.anges.co.jp

エメンド・バイオセラピューティクス社について



エメンド・バイオセラピューティクス社は、新規 CRISPR ヌクレアーゼ、最先端のタンパク質工学プラットフォーム、臨床プログラムの多様なパイプライン、広範な知的財産ポートフォリオを使用することにより、ゲノム編集ベースの医学の展望に変革を起こしています。www.emendobio.com

メディア問い合わせ

Julie Amar

info@emendobio.com